

(ア) 女性も男性も結婚した方がよい

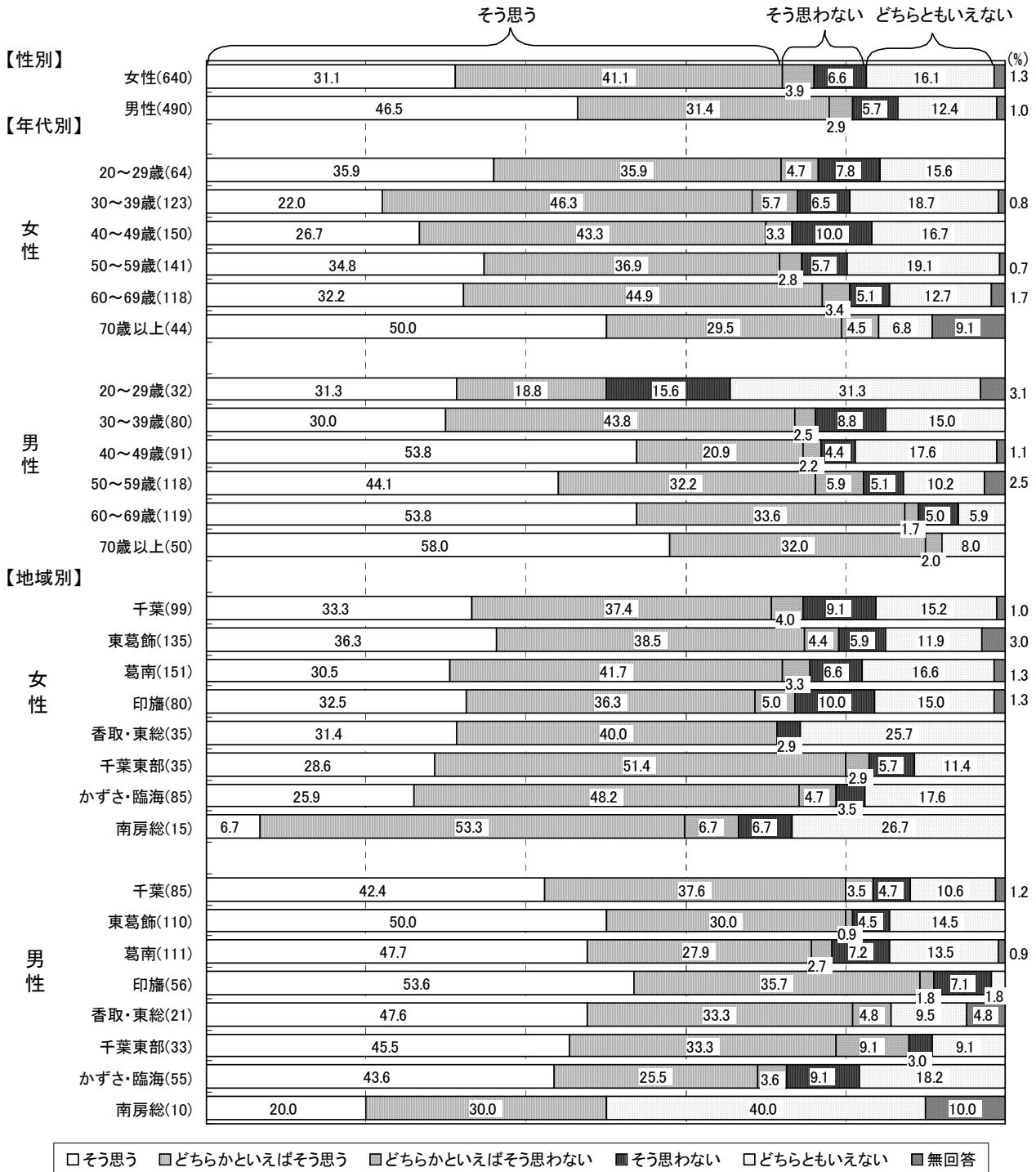
女性の72.2%、男性の77.9%が『そう思う』と回答しており、男性の方が『そう思う』と回答している割合が高くなっている。

【年代別】

男女とも若い年代になるにつれて『そう思う』の割合が減少する傾向があるが、20代男性では『そう思う』の割合が50.1%で、男女全年代を通して最も少ない。一方で、20代女性では、『そう思う』が71.8%で、他の年代とほとんど差はない。

【地域別】

すべての地域で『そう思う』と回答している割合が高く、中でも「印旛」の男性が最も高い(89.3%)。



(イ) 結婚する、しないは、個人の自由である

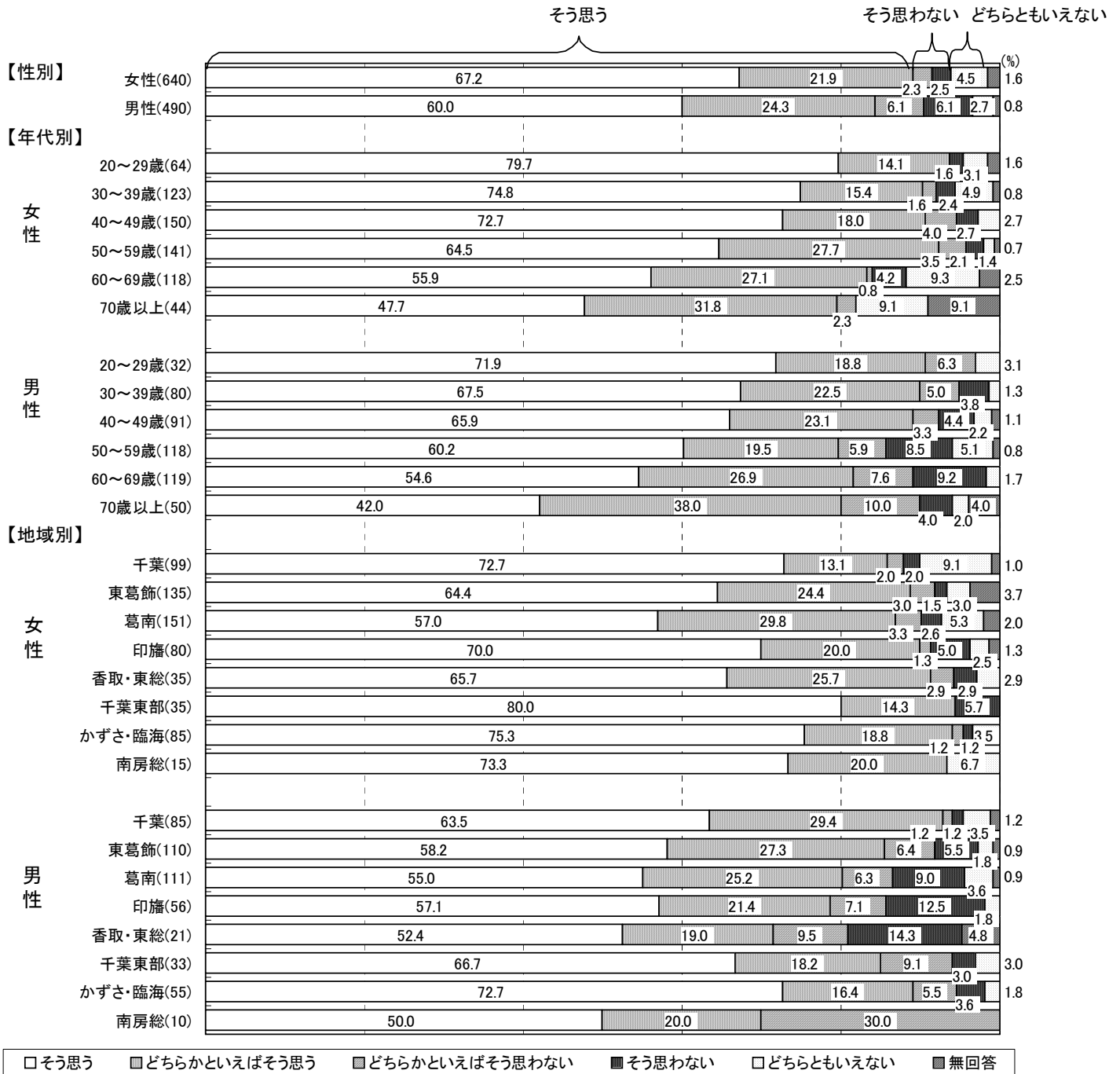
女性 (89.1%) も男性 (84.3%) も『そう思う』が圧倒的に多い。

【年代別】

男女ともに若い年代ほど『そう思う』と回答している割合が高く、女性の20代では93.8%となっている。最も『そう思う』の割合が少ない男性の50代でも、79.7%が『そう思う』と回答している。

【地域別】

いずれの地域でも男女とも『そう思う』の割合が高く、『そう思う』の割合が最も少ない「南房総」の男性でも70%が『そう思う』と回答している。



(ウ) 結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい

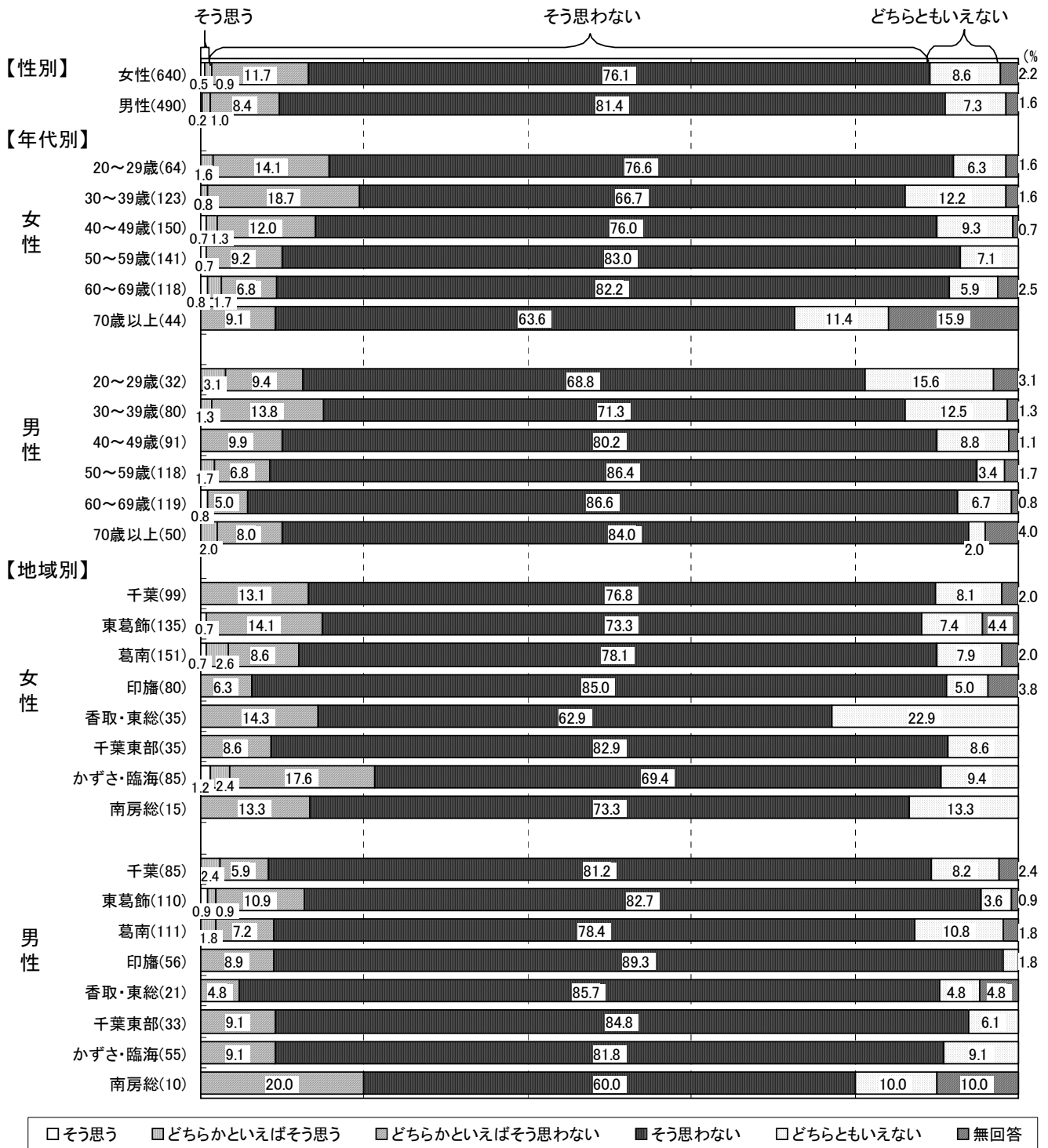
女性の87.8%、男性の89.8%が『そう思わない』と回答しており、『そう思う』(女性1.4%、男性1.2%)はわず
かである。

【年代別】

男女ともすべての年代で『そう思わない』と回答している割合が、圧倒的に高く、中でも男性の50代が93.2%
と最も高くなっている。

【地域別】

男女ともすべての地域で『そう思わない』と回答している割合が圧倒的に高く、中でも「印旛」の男性が98.2%
と最も高くなっている。



(エ) 結婚と性的関係は別である

男女とも『そう思わない』(女性 52.7%、男性 53.9%)が『そう思う』(女性 27.8%、男性 31.4%)を上回っている。
 なお、『そう思う』は、男性(31.4%)が女性(27.8%)を3.6ポイント上回っている。

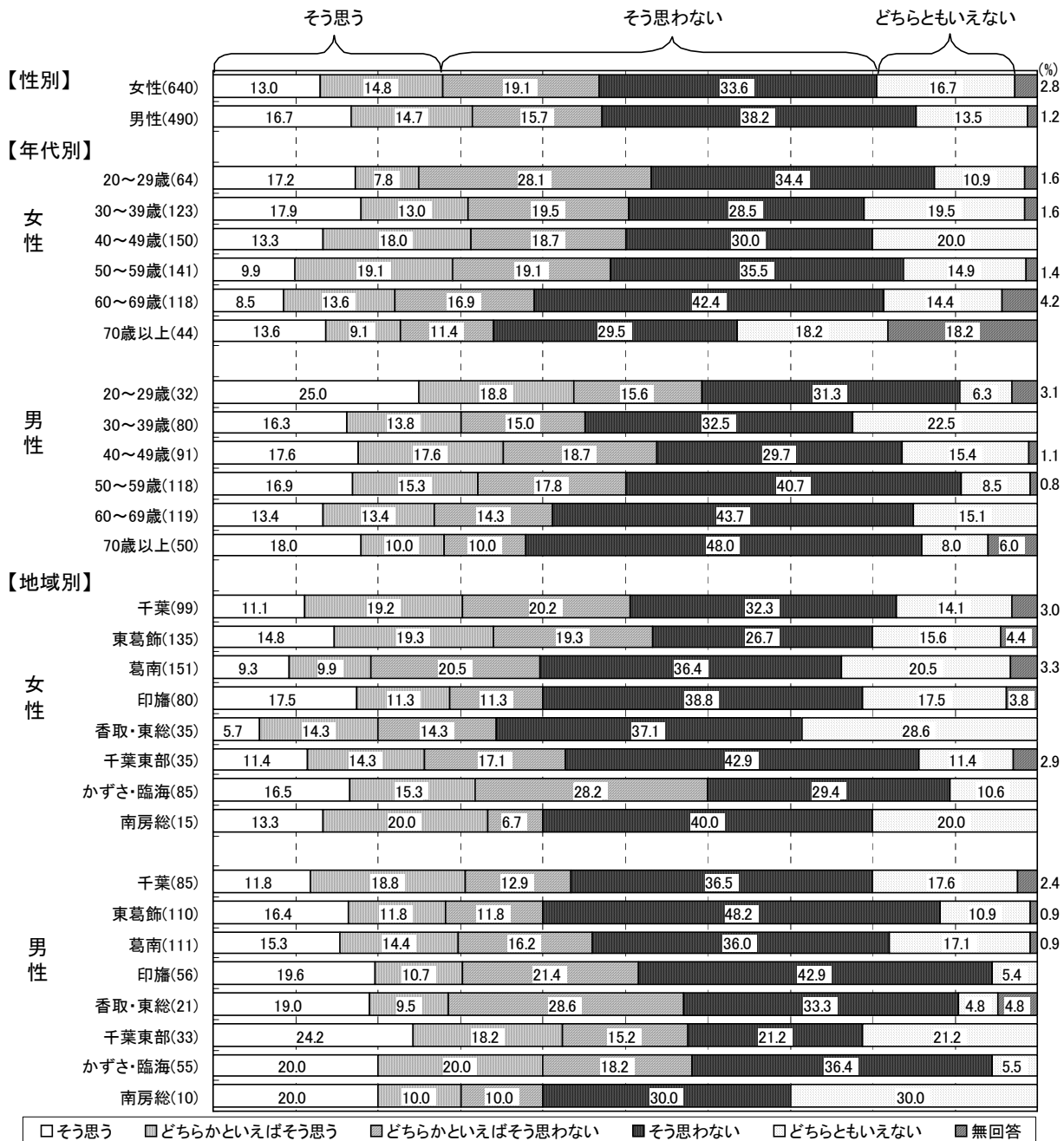
【年代別】

どの年代でも『そう思わない』と回答している割合が最も高いが、20代男性では『そう思う』(43.8%)と『そう思わない』(46.9%)が拮抗している。

また、20代では『そう思う』の割合が女性25.0パーセントに対し、男性43.8%と18.8ポイント高く、『そう思わない』は、女性62.5%に対し、男性46.9%と15.6ポイント低くなっているなど、他の年代に比べ意識差が顕著である。

【地域別】

ほとんどの地域で、男女とも『そう思わない』が『そう思う』を上回っているが、千葉東部の男性では、『そう思う』(42.4%)が『そう思わない』(36.4%)を6.0ポイント上回っている。



(オ) 結婚したら子どもを持つ方がよい

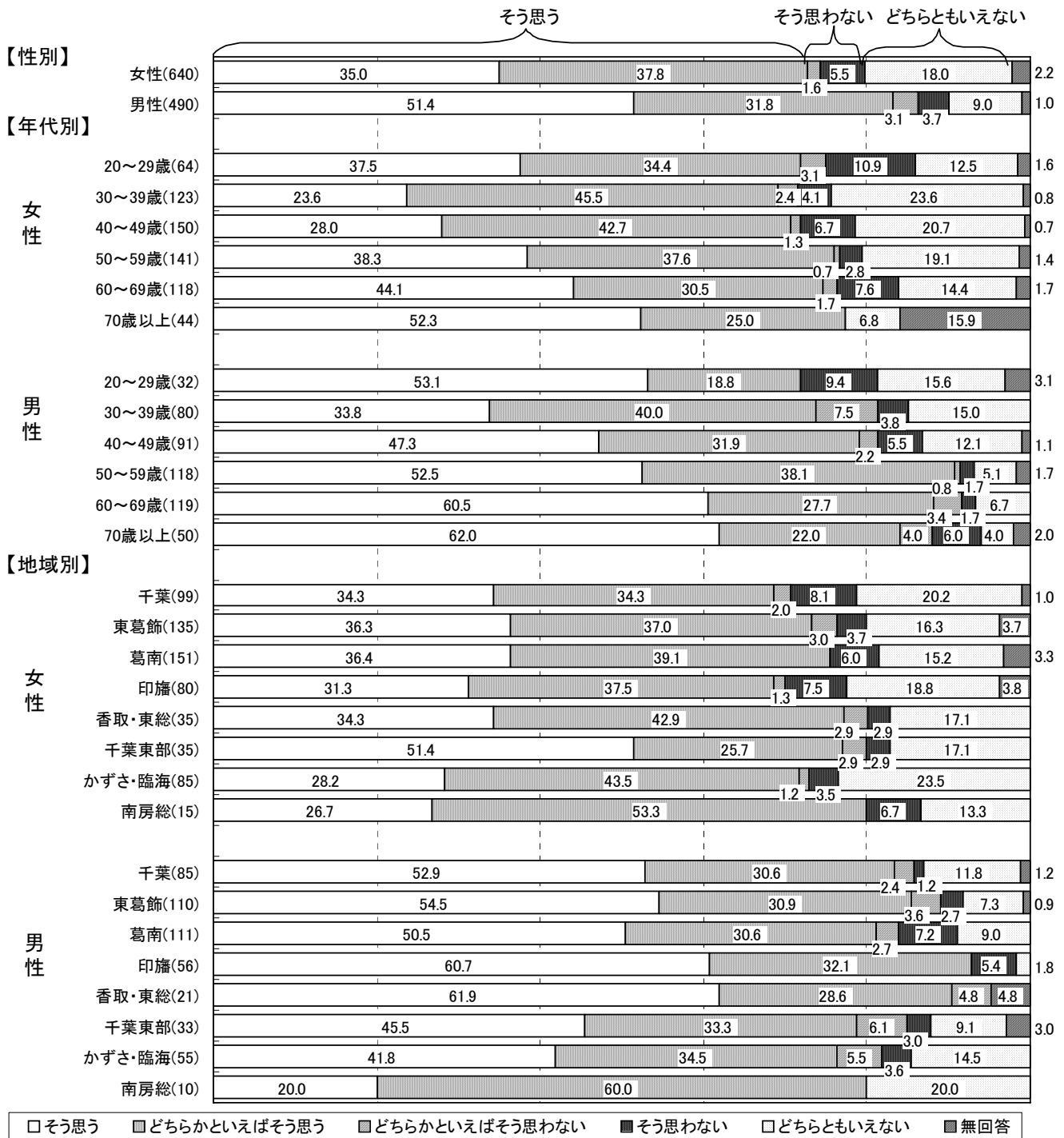
女性の72.8%、男性の83.2%が『そう思う』と回答しており、男性の方が『そう思う』と回答している割合が高い。

【年代別】

どの年代においても男性の方が『そう思う』と回答している割合が高い。女性では、『そう思う』と回答している割合は30代で69.1%と最も低く、70代以上で77.3%と最も高い。男性では、『そう思う』と回答している割合は20代で71.9%で最も低く、50代で90.6%と最も高い。

【地域別】

全ての地域で、男女とも『そう思う』の割合が圧倒的に高い。なお、男女の差が最も大きい地域は「印旛」で、『そう思う』が女性68.8%に対し、男性92.8%と24.0ポイントの開きがある。



(カ) 子どもを産み育てるのに、戸籍の上で結婚しているかどうかは関係ない

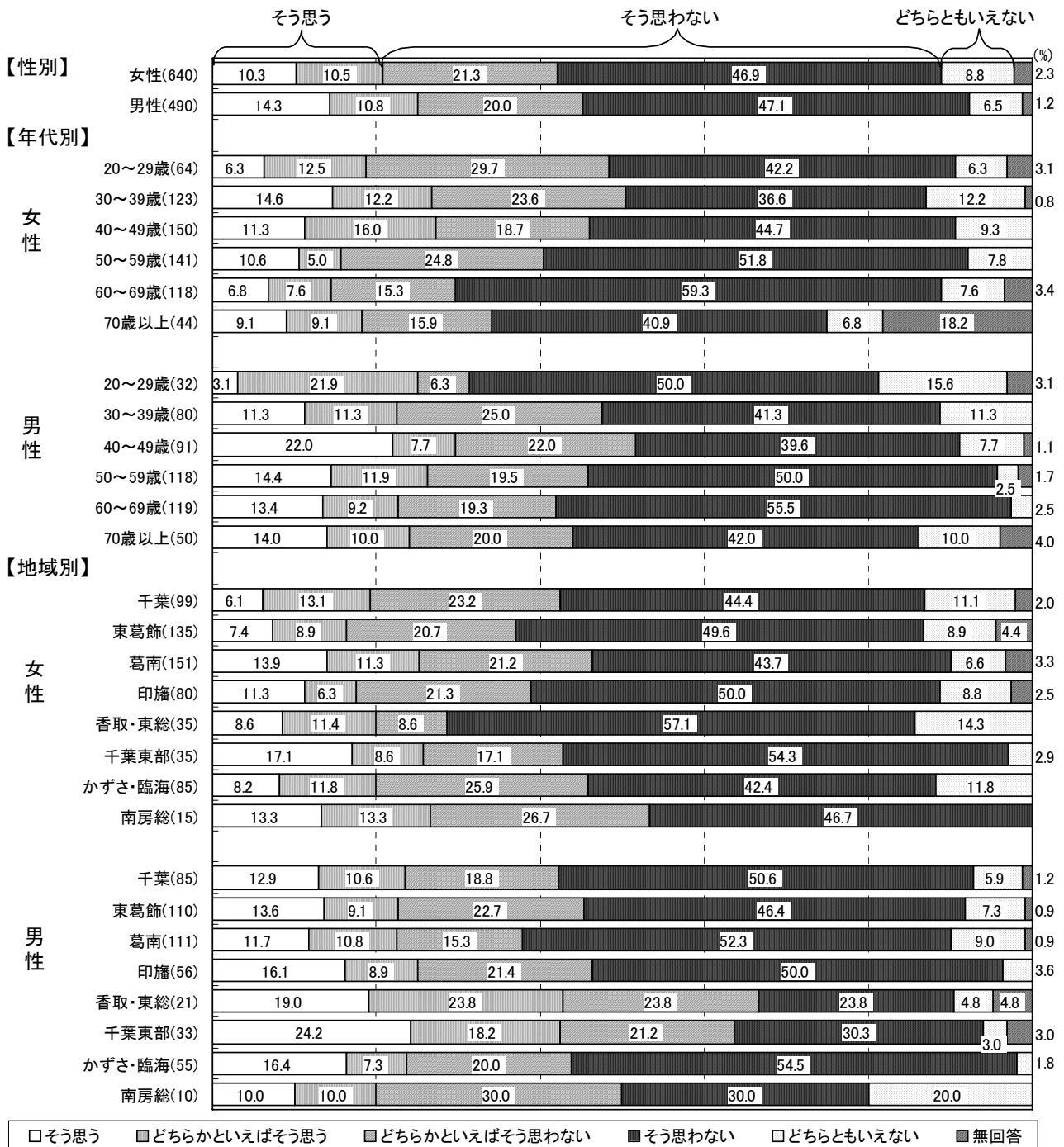
女性の68.2%、男性の67.1%が『そう思わない』と回答している。また、『そう思う』は、男性(25.1%)が女性(20.8%)を4.3ポイント上回っている。

【年代別】

『そう思う』と回答している割合は女性も男性も40代が最も高く、40代男性は29.7%である。また『そう思わない』は50代女性(76.6%)が最も高い。男女の意識差が最も大きいのは20代で、『そう思わない』が女性71.9%に対し、男性56.3%と15.6ポイントの差がある。

【地域別】

すべての地域で、男女とも『そう思わない』が『そう思う』を上回っている。なお、『そう思う』と回答している割合の男女差は、「香取・東総」(女性20.0%、男性42.8%)が22.8ポイント、次いで「千葉東部」(女性25.7%、男性42.4%)が16.7ポイントと男性の方が高くなっている。



【キ】夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい

『そう思う』と回答している割合は、女性が32.3%、男性が28.8%と、女性が若干高い。『そう思わない』は、女性の39.2%に対し、男性は50.2%で、11.0ポイント男性が上回っている。

【年代別】

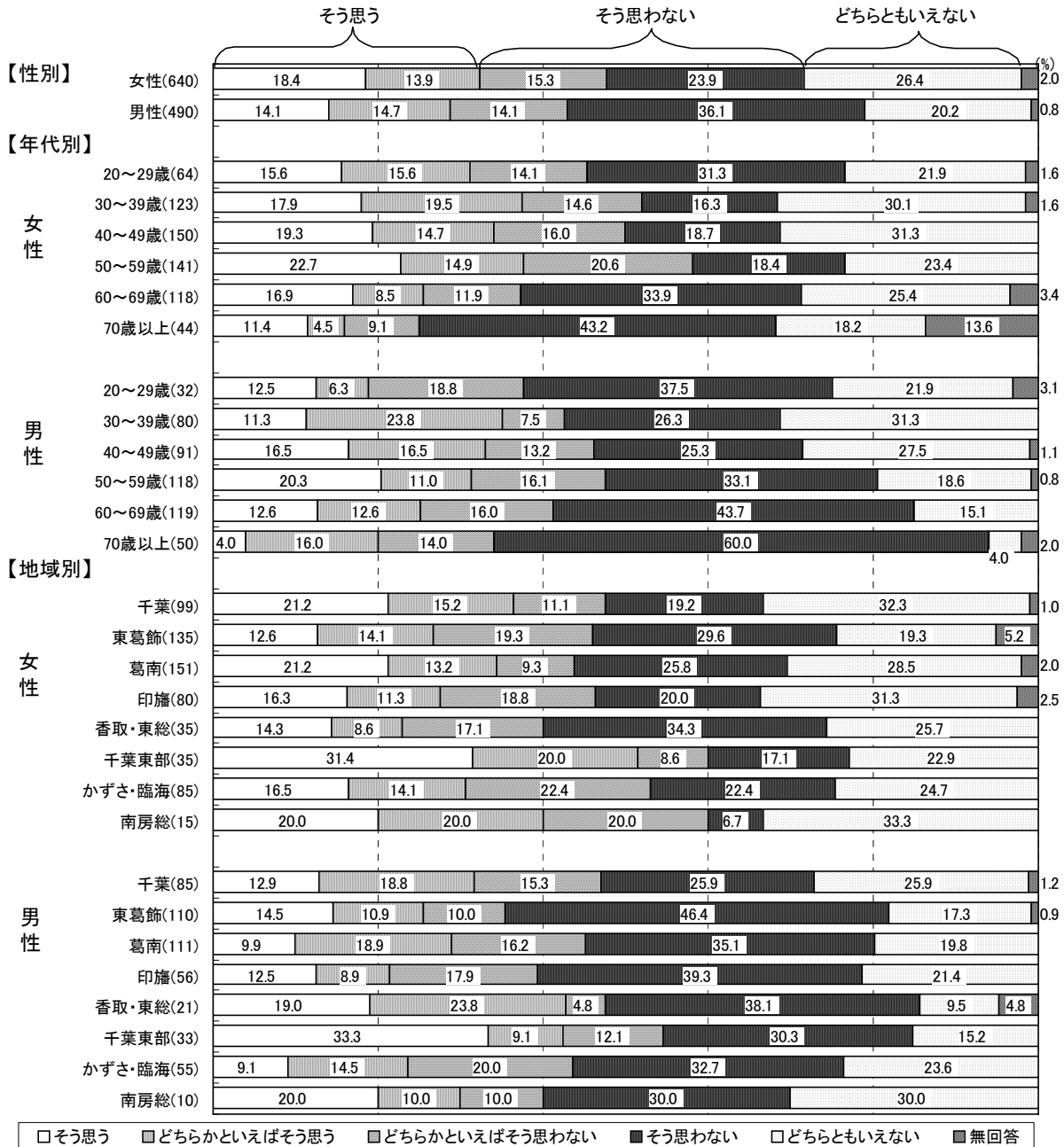
30代では、男女とも『そう思う』(女性37.9%、男性35.1%)が『そう思わない』(女性30.9%、男性33.8%)を上回っている。

女性では、『そう思う』と回答している割合は50代で37.6%と最も高く、70代で15.9%と最も低い。『そう思わない』は70代で52.3%と最も高く、30代で30.9%と最も低い。

男性では、『そう思う』と回答している割合は30代で35.1%と最も高く、20代で18.8%と最も低い。『そう思わない』は70代で74.0%と極めて高く、30代で33.8%と最も低い。

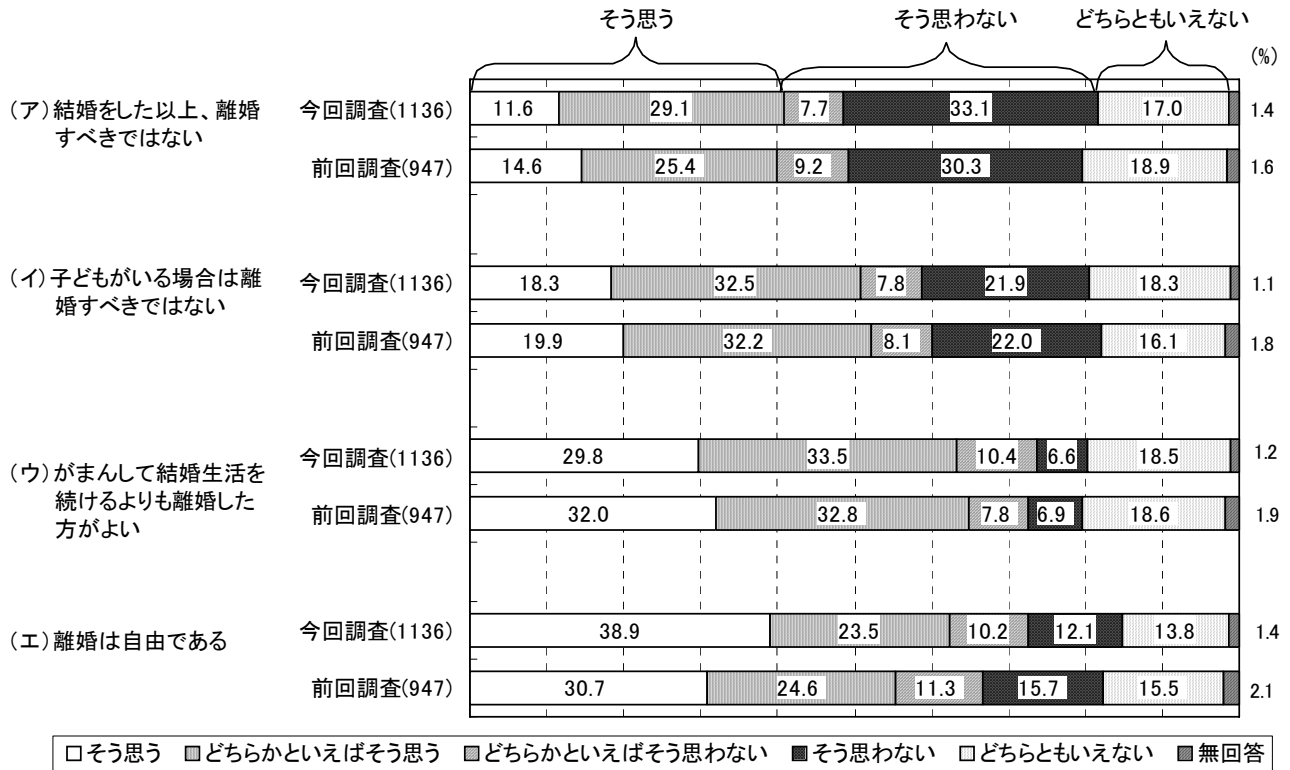
【地域別】

『そう思う』と回答している割合が最も高いのは女性では「千葉東部」(51.4%)、男性では「香取・東総」(42.8%)である。『そう思わない』の割合は、女性では「香取・東総」(51.4%)、男性では「かずさ・臨海」(52.7%)が最も高い。



(2) 離婚についての考え方

問3 (2) あなたは、離婚について、次の(ア)～(エ)の考え方をどう思いますか。(ア)～(エ)それぞれについて、いちばん近い考えの番号ひとつに○をつけてください。



結婚、離婚についての考え方を聞いたところ、『そう思う』と回答した割合が高いのは「子どもがいる場合は、離婚すべきではない」(50.8%)、「がまんして結婚生活を続けるよりも離婚した方がよい」(63.3%)、「離婚は自由である」(62.4%)で、「結婚をした以上、離婚すべきではない」は、『そう思わない』(40.8%)が『そう思う』(40.7%)を若干上回っている。

【前回調査(平成16年)との比較】

平成16年に実施した調査と比較して、大きな変化は見られないが、「離婚は自由である」については、『そう思う』が55.3%から62.4%に、7.1ポイント上昇した。

(ア) 結婚をした以上、離婚すべきではない

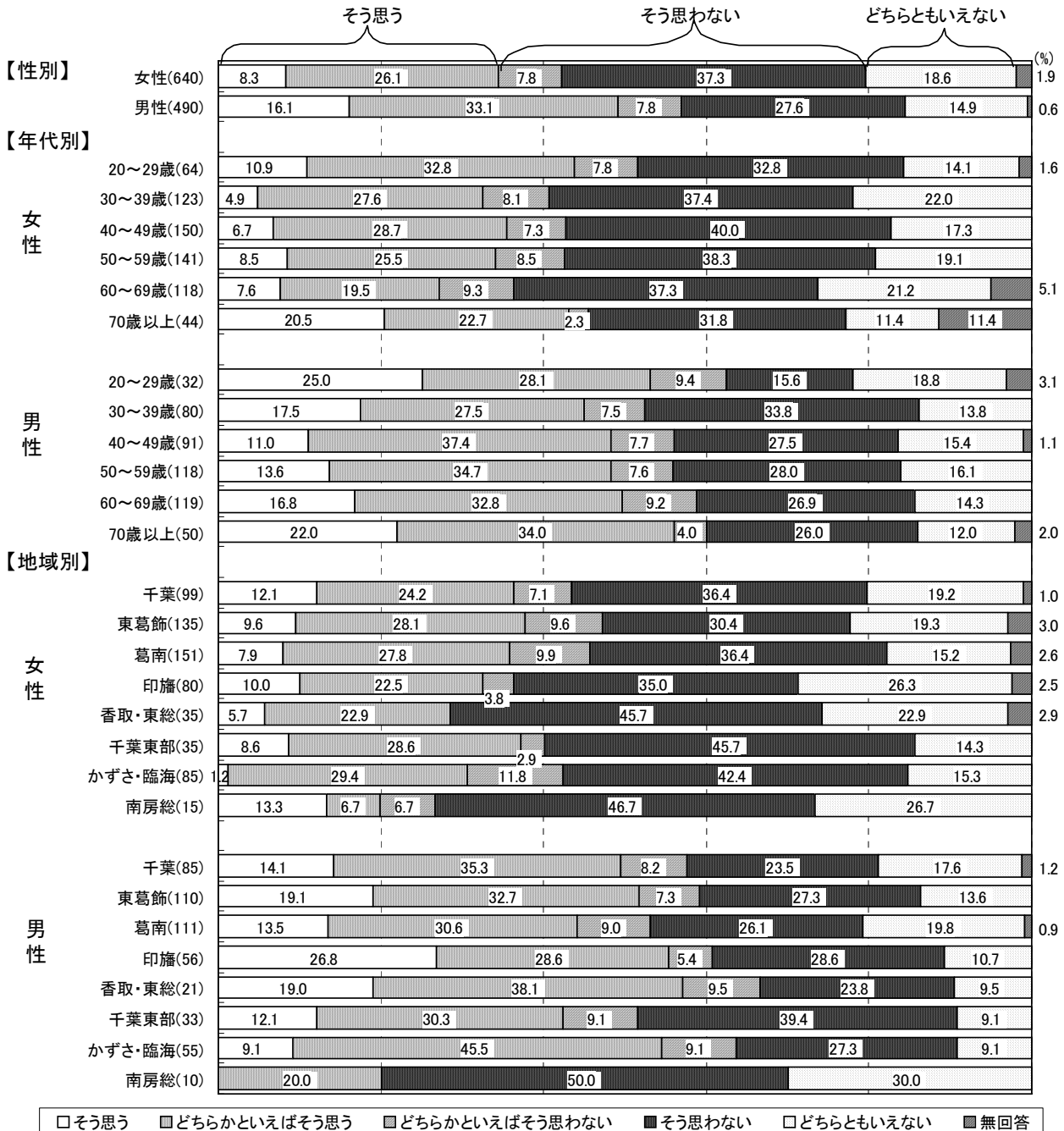
『そう思う』と回答した割合は男性では49.2%、女性では34.4%と、14.8ポイント男性のほうが高い。また、『そう思わない』は男性は35.4%、女性は45.1%と、女性のほうが9.7ポイント高く、男女の意識に差がみられる。

【年代別】

女性では、20代(そう思う43.7%、そう思わない40.6%)と70代以上(そう思う42.5%、そう思わない34.1%)において、『そう思う』が『そう思わない』を上回り、それ以外の年代では『そう思わない』が多い。男性は、すべての年代で『そう思う』の割合がいちばん高い。また、男女の意識差が最も大きいのは20代で、『そう思う』(女性43.7%、男性53.1%)は9.4ポイント男性が高く、『そう思わない』(女性40.6%、男性25.0%)は15.6ポイント女性が高くなっている。

【地域別】

「香取・東総」において、『そう思う』は女性28.6%、男性57.1%と28.5ポイントも男性のほうが高く、男女の意識の差が特に大きい。



(イ) 子どもがいる場合は離婚すべきではない

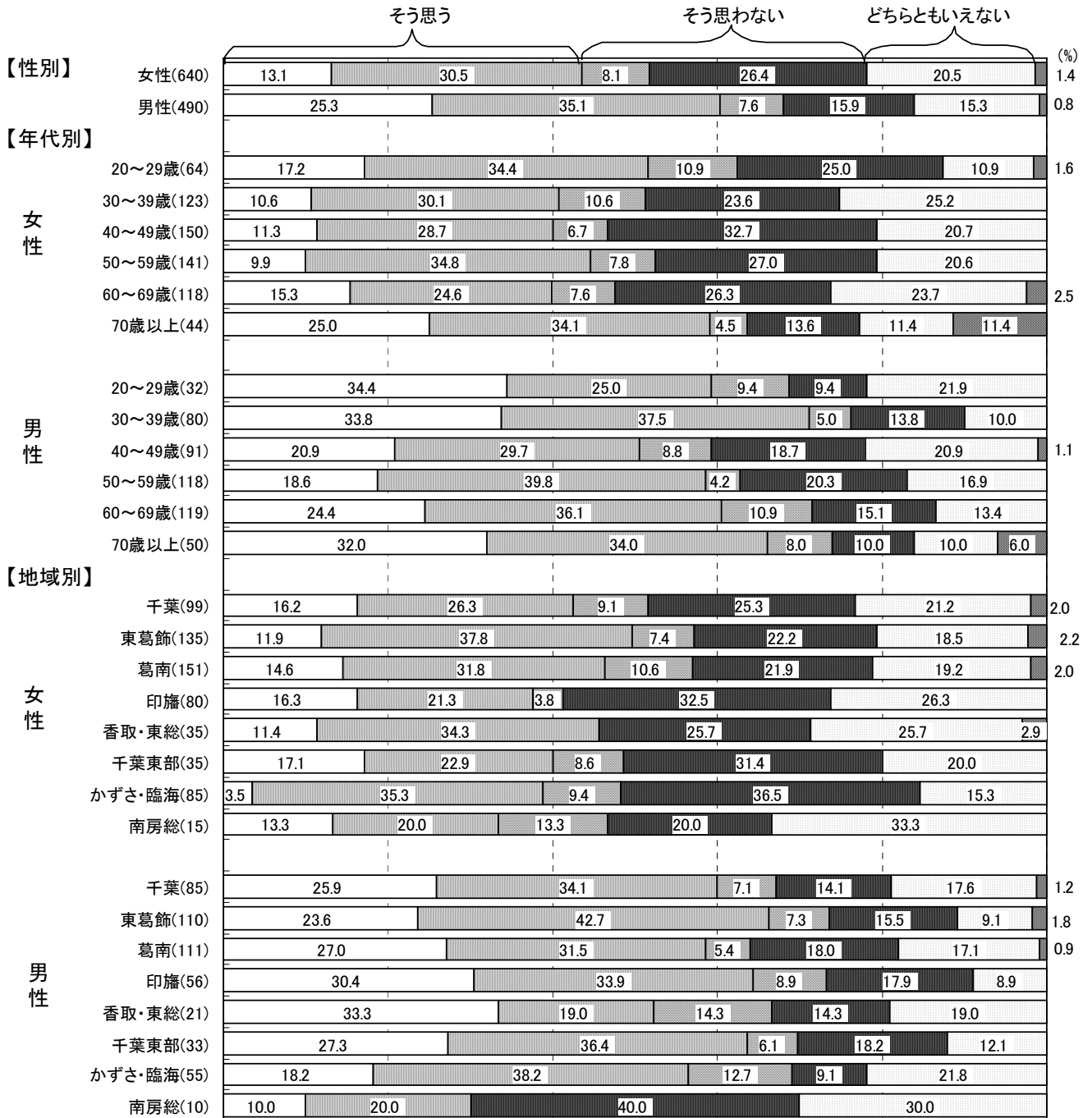
男女とも『そう思う』(女性43.6%、男性60.4%)と回答している割合が、『そう思わない』(女性34.5%、男性23.5%)より高い。また、『そう思う』は、男性の方が16.8ポイント女性より高く、男女の考えに差がみられる。

【年代別】

男女ともすべての年代で、『そう思う』と回答している割合が、『そう思わない』より高くなっている。また、『そう思う』の割合は、すべての年代で男性の方が女性より高くなっている。

【地域別】

『そう思う』と回答している割合は、男女とも「東葛飾」で最も高い(女性49.7%、男性66.3%)。



□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □どちらともいえない ■無回答

(ウ) がまんして結婚生活を続けるよりも離婚した方がよい

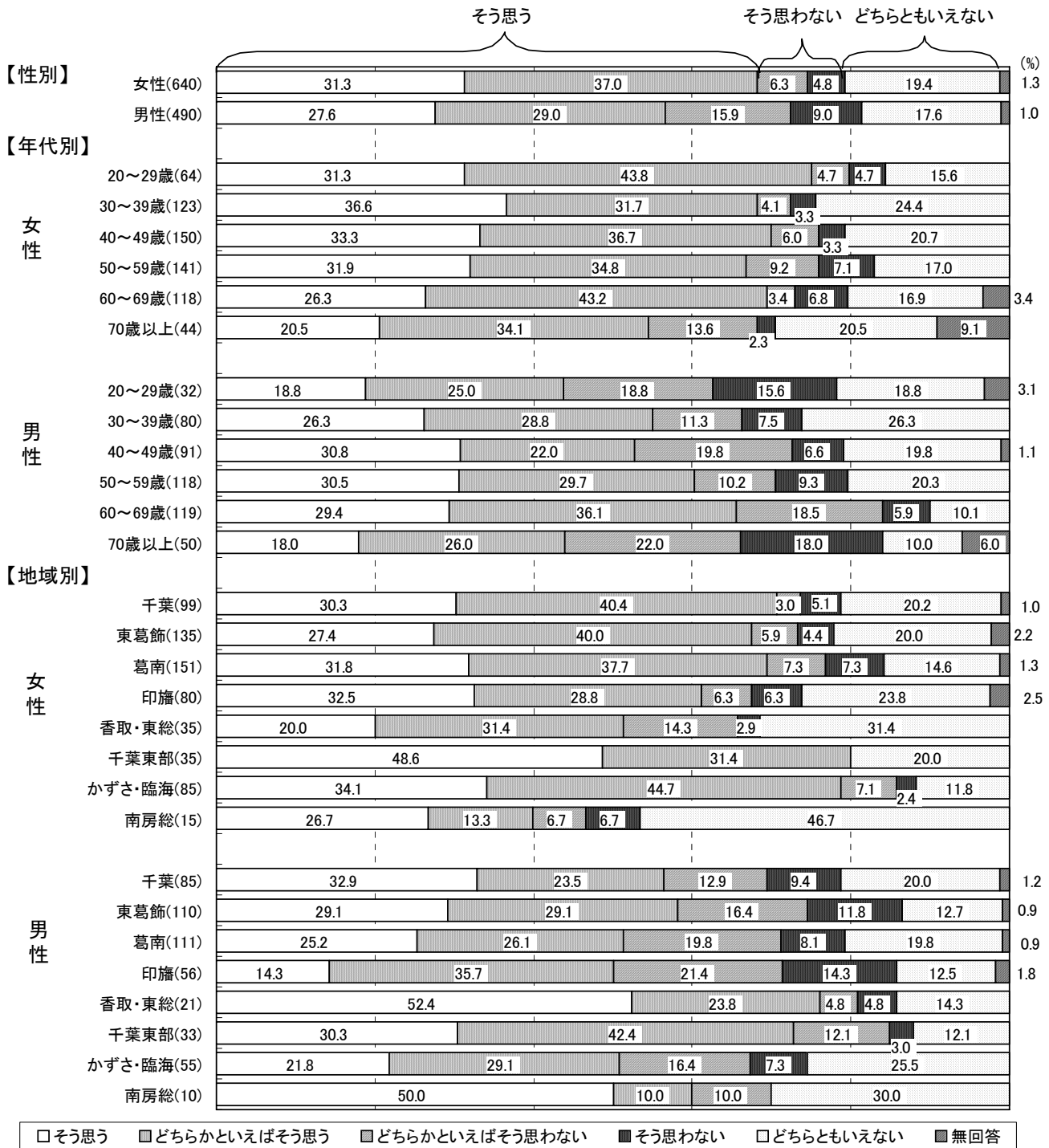
男女とも『そう思う』(女性68.3%、男性56.6%)と回答している割合が、『そう思わない』(女性11.1%、男性24.9%)を大きく上回っている。

【年代別】

男女ともすべての年代で、『そう思う』と回答している割合が、『そう思わない』より高くなっている。また、『そう思う』と回答している割合は、20代の女性は75.1%と全年代で最も高いのに対し、男性は43.8%と最も低くなっている。

【地域別】

「香取・東総」において、『そう思う』と回答している割合は、女性で51.4%、男性で76.2%で男性の方が24.8ポイント高く、男女の差が最も大きい。



(エ) 離婚は自由である

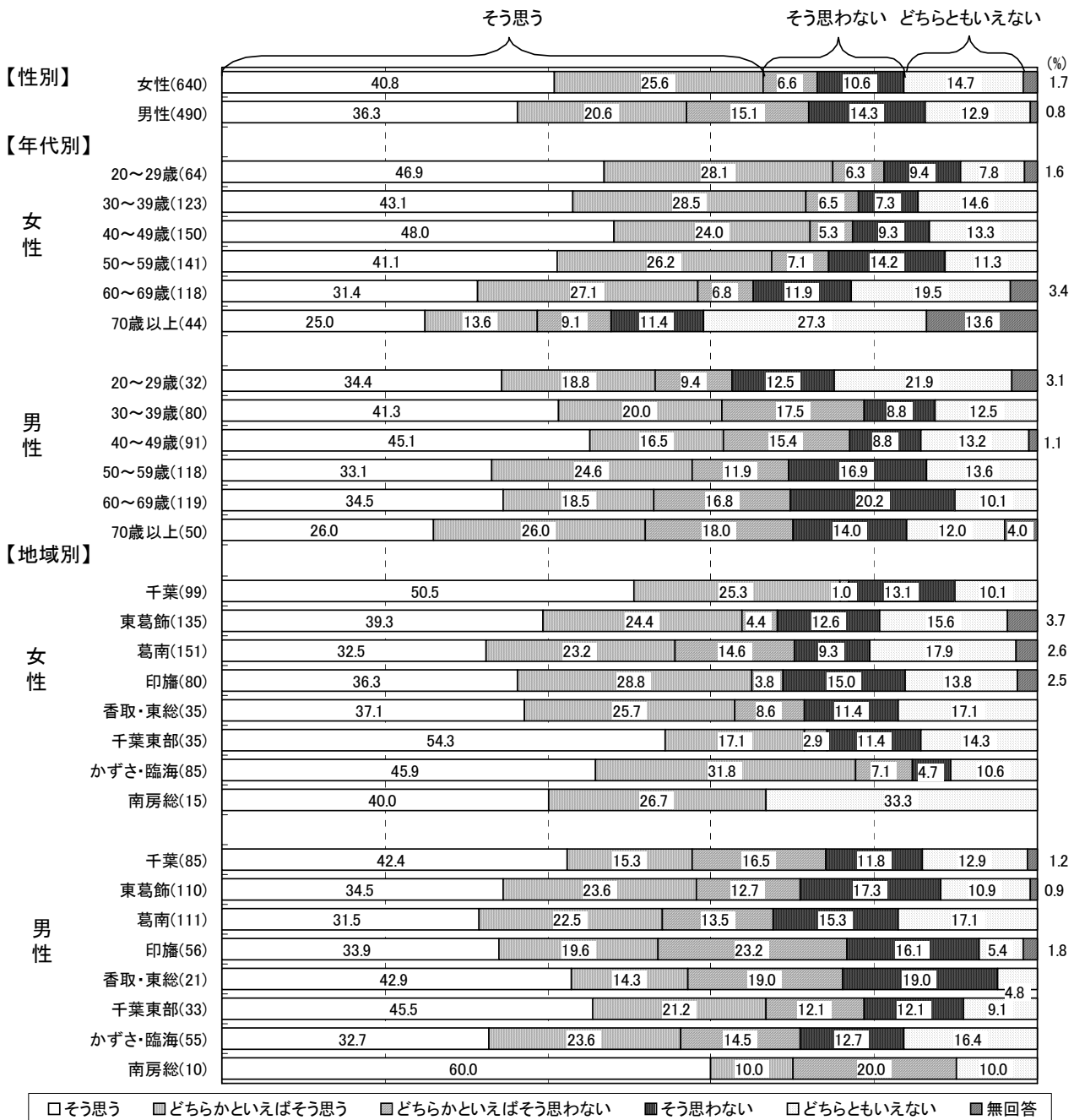
男女とも『そう思う』(女性 66.4%、男性 56.9%)と回答している割合が、『そう思わない』(女性 17.2%、男性 29.4%)より高くなっている。また、男性の方が『そう思わない』と回答している割合が、12.2ポイント女性より高くなっている。

【年代別】

男女とも全ての年代で『そう思う』の割合が、『そう思わない』より高くなっている。女性では、『そう思う』は20代で75.0%と最も高く、年代があがるにつれて低くなっている。男性では、『そう思う』は、40代で61.6%と最も高くなっている。また、男女の意識差が最も大きいのは20代で、『そう思う』が女性75.0%に対し、男性53.2%と21.8ポイントの差がある。

【地域別】

『そう思う』と回答している割合が最も高いのは、「かずさ・臨海」の女性で77.7%、『そう思わない』の割合が最も高いのは「印旛」の男性で39.3%となっている。



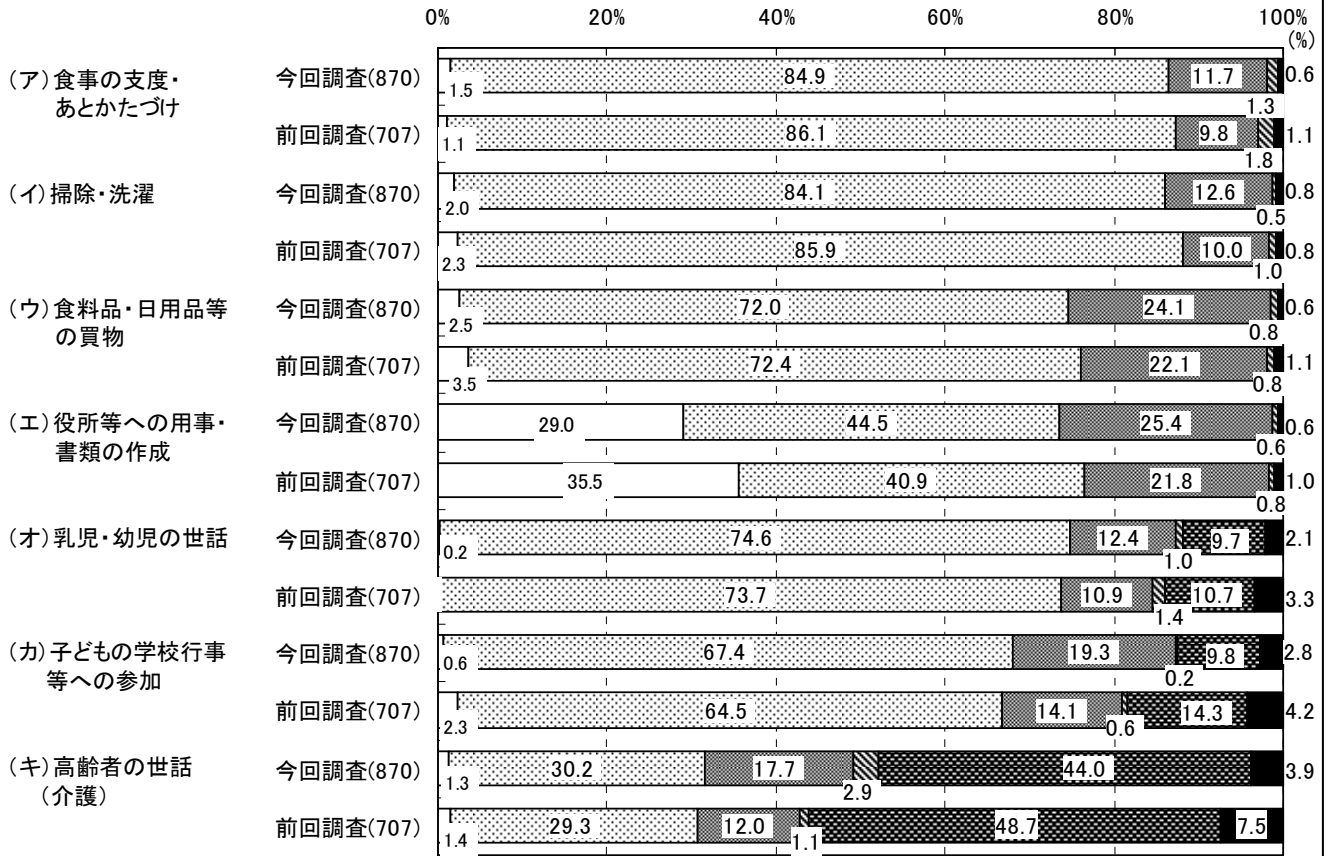
(3) 家事等の役割分担

(ア) 現在の役割分担

問5 あなたの家庭では現在、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

(ア)～(キ) それぞれについて、一番近い番号ひとつに○をつけてください。

※既婚者のみ回答



□主に夫が行う ■主に妻が行う ▨夫婦とも同じくらい行う ▩主にその他の人が行う ▪子どもや介護の必要な高齢者はいない ■無回答

既婚者に日常的な家庭の仕事7項目について、主に誰が担当しているかを聞いたところ、『主に妻が行う』の回答割合が高いのは「食事の支度・あとかたづけ」(84.9%)、「掃除・洗濯」(84.1%)、「乳児・幼児の世話」(74.6%)、「食料品・日用品等の買物」(72.0%)「子どもの学校行事等への参加」(67.4%)で、妻の役割分担が高くなっている。

「高齢者の世話(介護)」は該当者が約5割で、該当者に占める『主に妻が行う』の割合は58.0%、『夫婦とも同じくらい行う』の割合は34.0%となっている。

「役所等への用事・書類の作成」については、『主に妻が行う』と回答している割合は44.5%で、『主に夫が行う』が29.0%、『夫婦とも同じくらい行う』が25.4%となっており、他の項目に比べ、夫の役割分担が高くなっている。

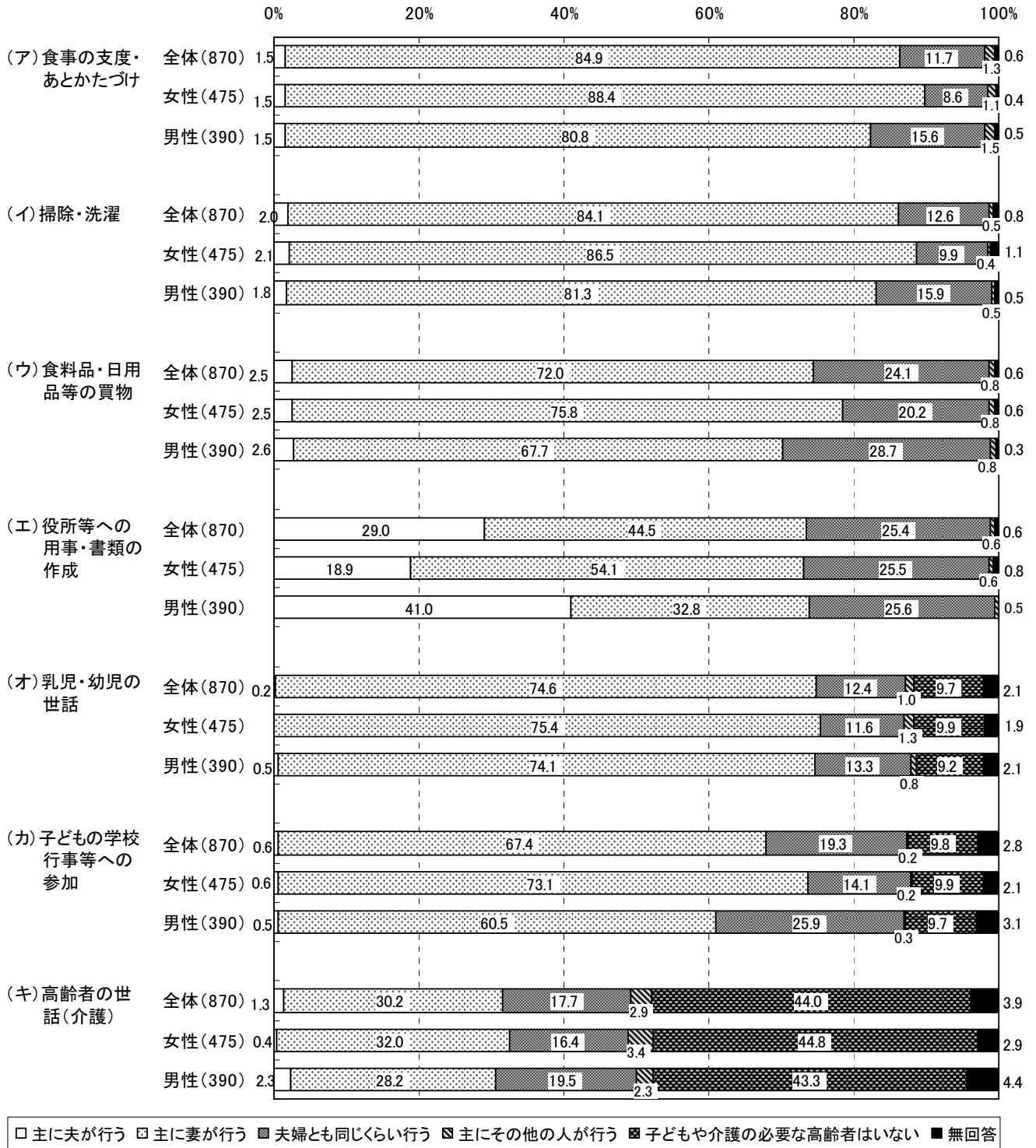
【前回調査(平成16年)との比較】

平成16年に実施した調査と比較すると、いずれの項目でも大きな変化はみられないが、『夫婦とも同じくらい行う』がすべての項目で増えている。

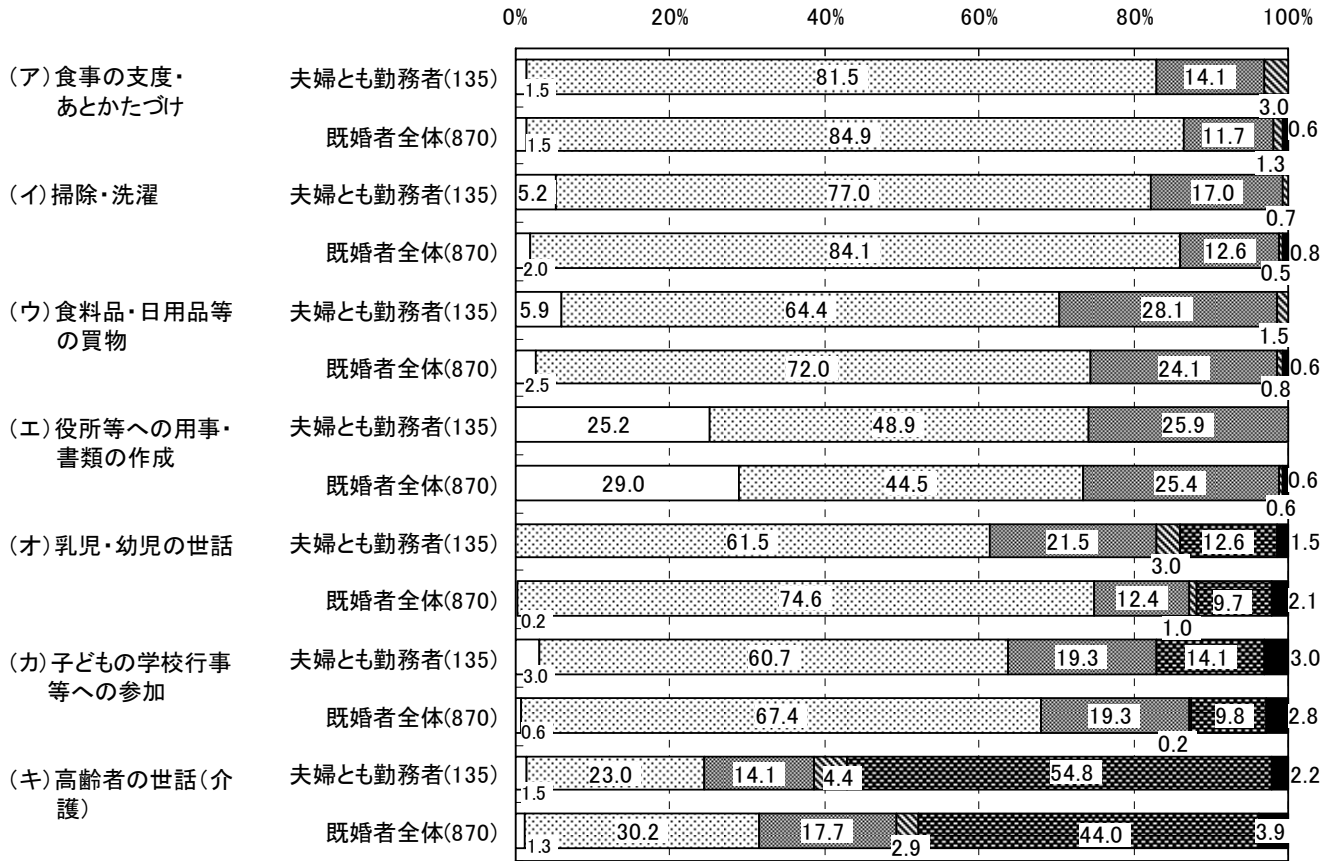
【性別】

どの項目においても、男性より女性のほうが『主に妻が行う』と回答する割合が高い。

特に、『役所等への用事・書類の作成』においては、女性は『主に妻が行う』(54.1%)が『主に夫が行う』(18.9%)より高いが、男性は『主に妻が行う』(32.8%)より、『主に夫が行う』(41.0%)と回答している割合の方が高い。



【夫婦とも勤務者の場合】

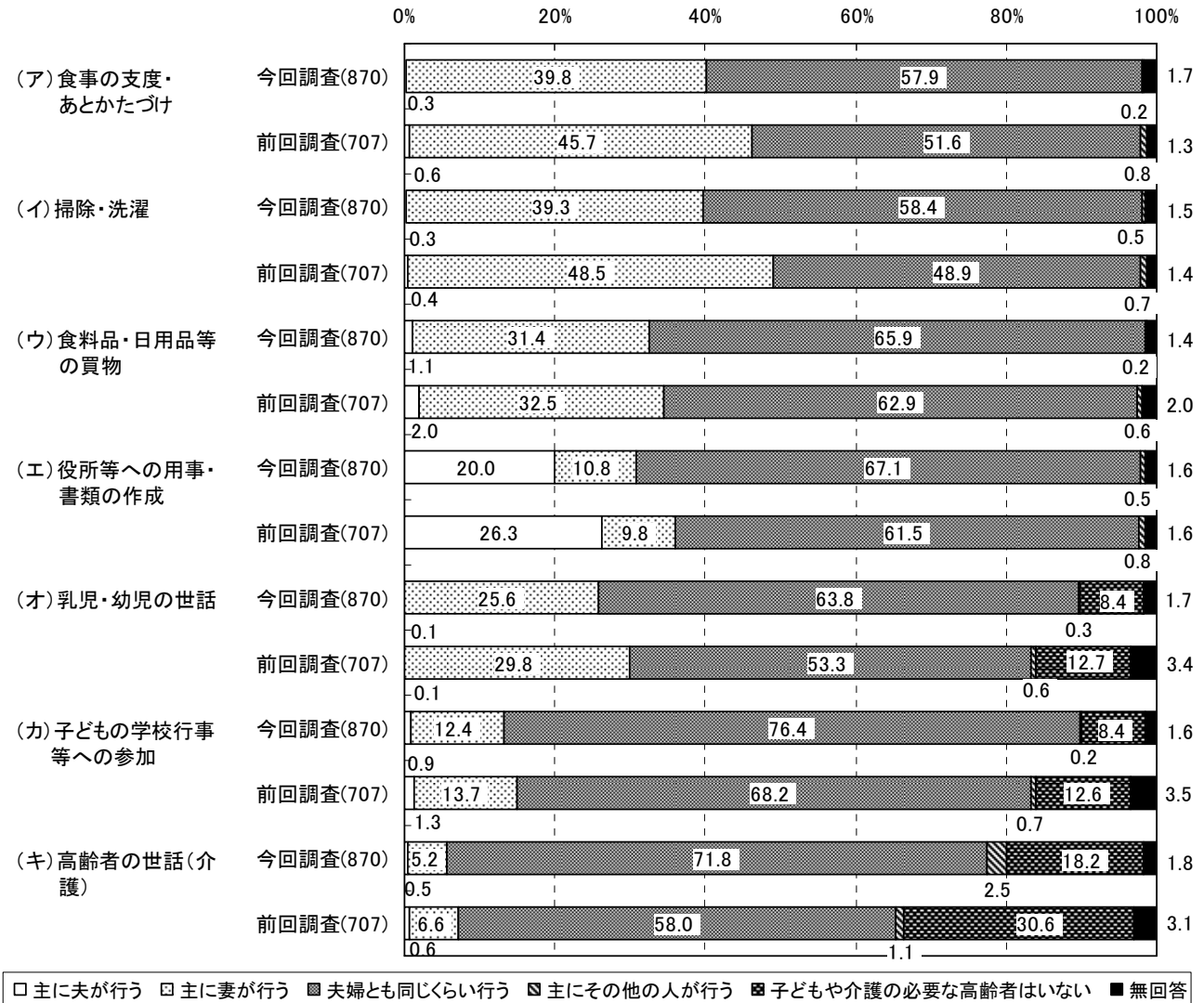


□主に夫が行う □主に妻が行う ■夫婦とも同じくらい行う ▨主にその他の人が行う ■子どもや介護の必要な高齢者はいない ■無回答

夫婦とも勤務者である場合の家事分担と、既婚者全体の家事分担の状況を比較すると、どの項目においても『主に妻が行う』と回答する割合が高く、共働きにおいても夫婦の役割分担はあまり変わらない。なお、「乳児・幼児の世話」においては『夫婦とも同じくらい行う』が夫婦とも勤務者の場合9.1ポイント高い。

(イ) 理想の役割分担

問5. あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか。(ア)～(キ)それぞれについて、一番近い番号ひとつに○をつけてください。

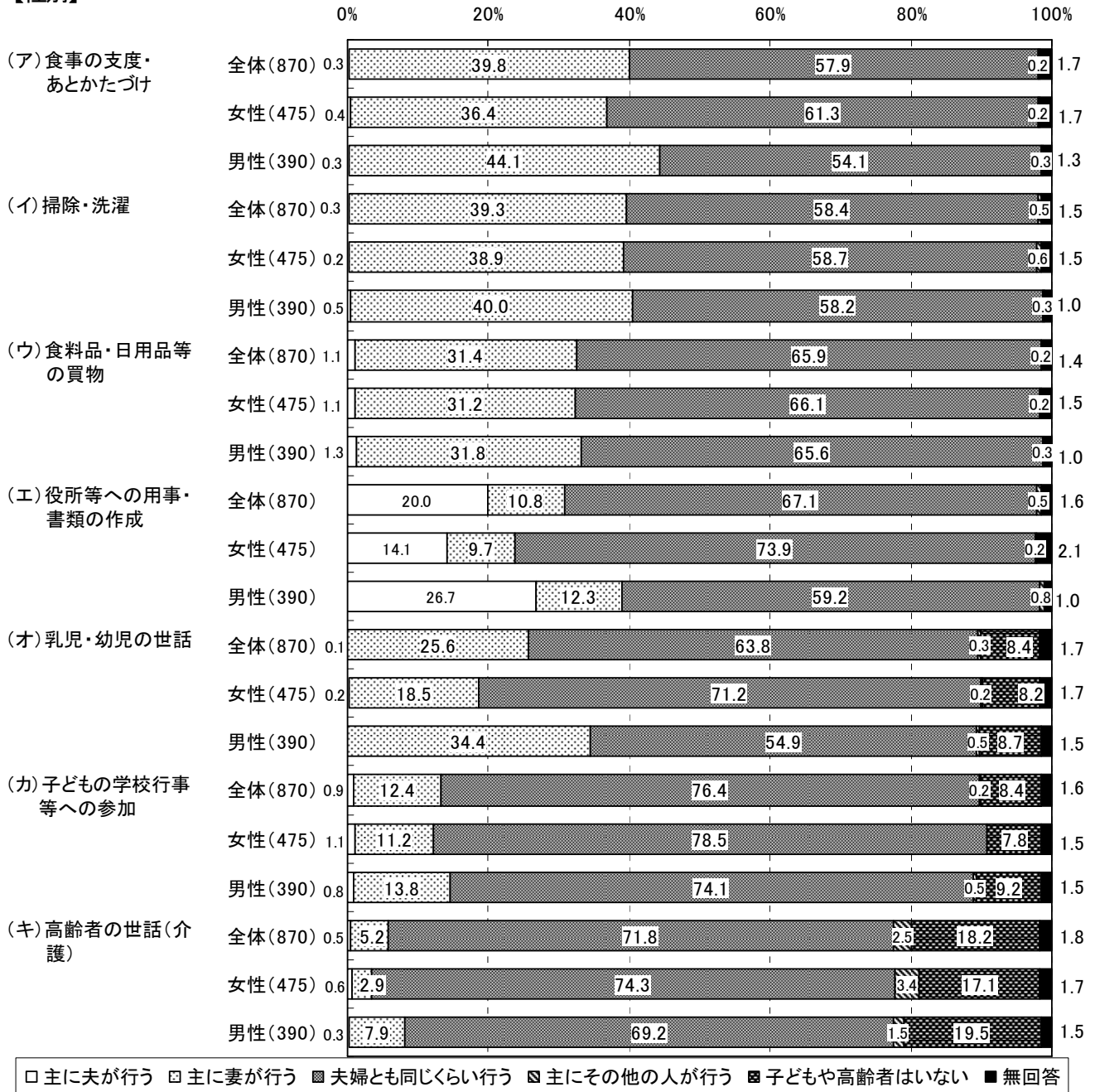


家事等の役割分担に関する理想を聞いたところ、全ての項目で、『主に妻が行う』よりも『夫婦とも同じくらい行う』と回答している割合が高くなっている。特に「子どもの学校行事等への参加」(76.4%)で最も高い。

【前回調査(平成16年)との比較】

平成16年に実施した調査と比較すると、すべての項目で『夫婦とも同じくらい行う』と回答している割合が高くなっており、意識の変化がみられる。

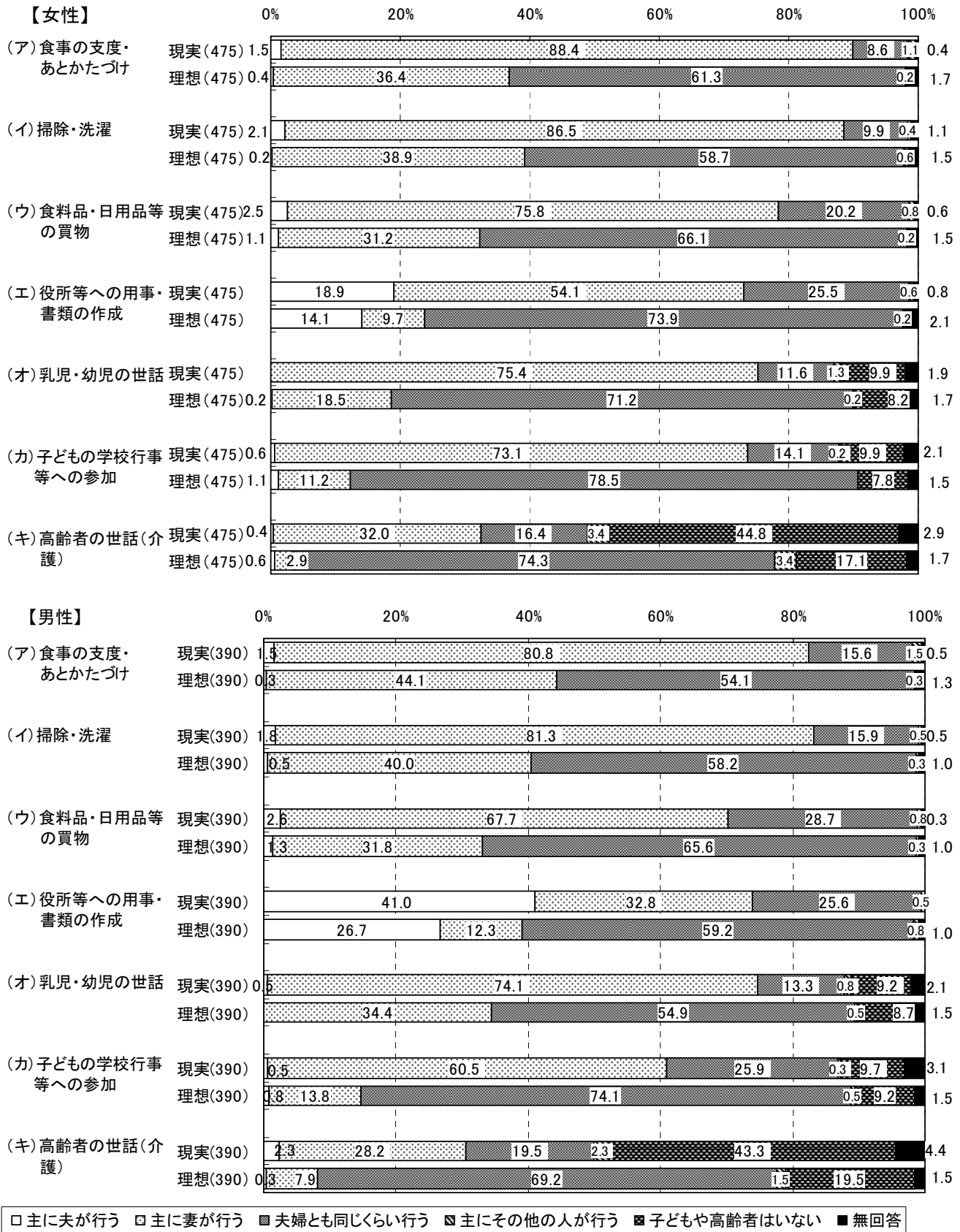
【性別】



男女別では、「食事の支度・あとかたづけ」及び「乳児・幼児の世話」の項目で、『夫婦とも同じくらい行う』の割合がそれぞれ7.2ポイント、16.3ポイント男性より女性が高く、男女の考え方に差がみられる。

また、「役所等への用事・書類の作成」については、『主に夫が行う』と回答した割合が、女性より男性のほうが12.6ポイント高い。

(ウ) 理想と現実



男性、女性ともに、いずれの項目でも理想と現実の間に大きな隔たりが認められる。男女とも、理想では『夫婦とも同じくらい行う』の割合が最も高く、現実では『主に妻が行う』の割合が高い。